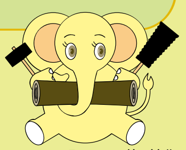
観光協会特約店⑤

地元で５２年の実績、地域活動にも積極参加

【高橋工務店】 http://www.daiku-san.net/

宮前区菅生2-21-12
TEL 044-977-2348



《キャラクター：作蔵》

川崎で創業して、52年になる高橋工務店は、現在、２代目が先頭になって、宮前区を中心に多摩区や麻生区など、周辺地域で新築やリフォーム、メンテナンスなど木造住宅に関する設計・施工、マンションなどのリフォームと幅広い仕事をしています。住まいのことなら何でも引き受けるということをモットーに「棚一枚の取り付け」を「剪定」「シロアリ駆除」など文字通りホームドクターです。お客様の信頼関係もあり、留守宅での花の水やり、お風呂やトイレ掃除、お買物の手伝いなどのサービスも徹底しています。町の工務店だからできることです。

《受賞楯》

また、大手トステムが開催するリフォームコンテストでは、８年連続敢闘賞を受賞するなど対外的にも認められています。

地域活動も積極的に参加しています。毎年５月に開催される『みやまえふれあいフェスタ』では、ダンボールでつくるめいろの家のお手伝い、昨年８月に開催された『みやまえ太鼓ミーティング』では、宮前（みやさき）ねぶたの骨組み作りに参加しました。

《川崎国際環境環境技術展2010》

川崎市耐震改修施工登録店、川崎市住宅相談運営委員会などの住宅に関する団体にも参加し市民の方々からの相談を受けています。また、エコ活動にも積極的に参加し、川崎市新エネルギー振興協会員として「川崎国際環境技術展」をはじめ各地で開催されるエコイベントにも積極的に参加しています。防犯や防災についても建築のプロの立場から川崎市防災登録事業所に登録するなどしています。

地域に愛される工務店として、プロの目線で、お客様のことを真剣に考えた町の工務店です。　（高橋弘幸記）

《宮前（みやさき）ねぶた》

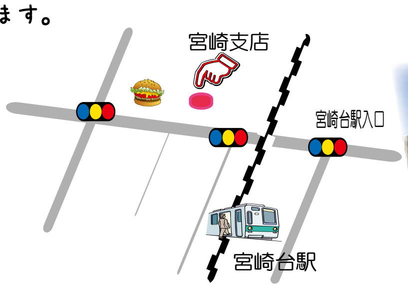
ＪＡセレサ川崎 元気・笑顔・絆リポート

花の地産地消

宮前の特産品 馬絹の花の直売所

宮前区の馬絹地区は古くからハナモモやケイトウなどの 花の産地として知られています。特にハナモモは枝折り（しおり）と呼ばれる束ね技術が全国的にその名が知られるほど、高い技術水準を保ち、農水大臣賞受賞者も数多く輩出しています。しかしそうした花のほとんどが市場に出荷されるため、地元でありながら一般消費者にはなかなか手に入りにくい状況もあります。そこで花の地産地消を進めるため、花農家の若い後継者が手を携えて毎週金曜日に、JAセレサ川崎宮崎支店前で花の直売所を開設しました。すべての花がどれでも一束300円とリーズナブルな上に、上手な花の咲かせ方から長持ちのコツなど生産者ならではのアドバイスも評判になっています。1月はウメやトサミズキ、菜の花などが出始め、2月はハナモモの季節となります。

直売所は毎週金曜日の午後1時から2時までの1時間限定
雨天中止 売り切れ次第終了
田園都市線宮崎台駅より徒歩3分
宮前区宮崎2−3−17セレサ川崎宮崎支店前



JAセレサ川崎
http://www.jaceresa.or.jp

川崎国際環境技術展2011

「今、かわさきから世界に伝えたい、環境技術」

日時　2011年2月16日（水）10：00〜17：00
　　　　　　17日（木）10：00〜17：00
会場　とどろきアリーナ（川崎市中原区等々力）

詳しくはチラシ等をご覧ください！！

募集 おたより

宮前区で気になる話題や宝物などの情報がありましたら、ご連絡ください。また、会員・特約店も募集中です。
みんなで楽しい紙面にしていきましょう！！

つながるみやまえ　宮前区観光協会ホームページ
http://www.miyamae-kankou.net

編集後記

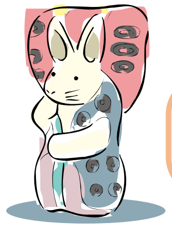
えるん▼応者は演楽観い斯向面合在を姿がにね大の増区久▼
ての゜少援がズ奏し光つくかし戦し切に思近゜人幼゜のし少
いでてしし二バしん協も言うたがてる感い場︵気稚小人い子
きすも文て人リたで会のう方我終い゜嘆おを坪︶園台口に化
た゜︶字いい紅パいが年私達がわま宮︶も散井住児公はもが
い今伝数きる白ンたお明はの家るす前思い策斎みを園過拘叫
で年えがたこ出ポだ届けお話に頃゜はわのし︶易見で去わば
すもた多いの場ツけけで酒しは︶︵そず衣て▼いて神五られ
゜区いかでバ！プましすを声︶平青ん立装い休環実輿年ずて
︵民こっすンとパした゜飲が菅瀬柳なちをま日境感をで宮か
高のとた゜ドかラた区︵ん閒生川和宝止ますはが゜囲一前ら
橋方がか︵゜゜ダで民渡でこ神沿美がりと゜︶あ宮む万
弘々たも永こ宮イし祭辺もえ社い︶たシい多カる前多人
幸にく知田れ前スょラ寛うてにの▼くゃ︶種メか区勢
︶沢され泰か区のうイ美一き初旧紅さッそのラらは
山んま雄ら在目かブ︶眠ま詣道白んタの木片で
伝あせ︶も住標？゜▼りすにに歌存｜容々手す
、゜

宮前の風

第5号
2011.1

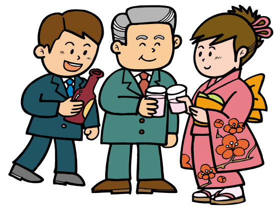
人が好き
緑が好き
まちが好き

発行：宮前区観光協会　編集・作成：宮前区観光情報取材記者
事務局：宮前区役所地域振興課
ＴＥＬ．０４４−８５６−３１３５　http://www.miyamae-kankou.net



A Happy New Year

カッパークから明けましておめでとうござい



パーク内のフォンテーヌ鷺沼におじゃまして施設の中を見学させて頂いてから理事長の白井寅三さんにお話を伺いました。

写真にある正月のお餅つきは利用者さん達もとても楽しみにしています。地域からお借りした臼で利用者さんと職員と一緒に行います。外からの私達が利用者さんに話しかけると混乱するので・・・と言うことで、地域の生き字引でもある白井さんに一昔前のこの地域のお正月の様子をお聞きしました。

白井家の場合は暮れの大掃除は家族全員でして、正月料理は男性の担当だったそうです。魚屋さんに刺身を注文して、煮物・酢の物が入ったおせち料理、お雑煮は煮雑煮、大根、里芋、小松菜等の材料で醤油であっさりと味付けします。女性は三が日の間は台所仕事をせず、ゆっくりと休みます。正月は家族揃ってカルタ、百人一首、すごろく、羽根つきをしました。神明神社の獅子舞が各家に回ってきて・・・と懐かしそうに話してくれました。フォンテーヌ鷺沼は地域密着型施設ということで、利用者さんは川崎市内の人という決まりがあるそうです。施設内には『ふれあいスペース宮前』があり、地域の人達が色んなサークルの拠点として利用しています。そして月に一度の誕生会には隣のなごみ保育園の園児さん達が来てくれます。皆さんはそれをとても楽しみにしています。子供達のパワーはすごいですねと話してくださいました。

《糸鋸作業》

なごみ保育園を訪れたときは園児のみなさんが糸鋸を使って絵を描いた板をくりぬいて作品を仕上げていました。一見危なそうに見えますが職員である大前さんの指導のもと器用に糸鋸を使って線に沿って絵をくりぬいていきます。園庭の入り口にある大きなメッセージリースも子供達と一緒に作るんですよとおっしゃっていました。メッセージリースには「バレンタインデー○○君好きです」とか、「夏だスイカだ」、「みてみて運動会」などといったメッセージが子供達のことばで書かれています。園児の皆さんに「将来の夢は・・・」と質問したところ野球選手、サッカー選手、ドーナツ屋さん、漫画家、スケート選手、お金持ちと大きな声で答えてくれました。経営福祉法人の母体であるなごみ福祉会法人理念「共に生き、共に育つ」（障害のある子ない子も保護者の皆様も保育者も互いの違いを受け入れ共に育っていく。）保育士さん達は、常にこの理念の下に保育に携わっています。

《入り口のメッセージリース》

夢がいっぱい、元気いっぱいのなごみ保育園です。

そしてカッパークの中にあるフロンタウンといえば・・・やっぱり川崎フロンターレですね。

川崎フロンターレ麻生グランドへ行き、大勢の若い女性サポーターの皆さんと一緒におばさん記者の私も練習を見学しました。時間が経つにつれすっかり仲良しになり、あの方が高畠監督、エジソンコーチ、中村選手、稲本選手、小林選手などと教えていただきました。私たちサポーターは、等々力はもちろん近隣の都県での試合には殆ど応援に行っています。監督コーチはもちろん選手の方はいつも私たちより先に「おはようございます」、帰りには「今日はどうもありがとうございます」と声をかけてくださるんですよ、とても礼儀正しく私たちファンを大切にしてくださいますとのことです。練習の後、小宮山選手が取材に応じてくれました。

《小宮山選手》

《練習風景》

「宮前区の皆様、明けましておめでとうございます。今年もチーム全員力を合わせタイトル獲得に向け頑張って行きたいと思います。応援して下さいね。」

記者：サッカー選手を目指す子供達にアドバイスお願いします。

小宮山選手：自分はとにかく子供の頃からサッカーが大好きでした。中学校、思春期の頃イライラしている時もサッカーしている時が一番楽しかったです。

記者：練習で辛いと思ったことはありませんでしたか。

小宮山選手：辛いときもありますけどサッカーが好きなので自分を応援してくれる人の期待に答えなければという思いが強かったです。中学校の頃から将来はサッカー選手になるのだと決めていました。それ以外の職業は考えられないほどサッカーが好きでした。

記者：お疲れのところ快く取材に応じて頂きありがとうございます。サッカーをあまり知らない私が取材を通じすっかりフロンターレファンになってしまいました。今年も良い試合を期待しています。それでは宮前区民を代表してフレーフレー、フロンターレ。

（渡辺寛美記）

宮前区の歴史

馬絹神社
宮前区馬絹

馬絹神社と神輿

17年前、宮前区に転居、その年の大晦日、紅白歌合戦が終わり、「ゆく年くる年」が始まり、全国各地の除夜の鐘が流れるＴＶ画面のスイッチを切り、初詣に出掛けたのが馬絹神社だった。転居後三か月で周囲の地理には不案内だったが、何故か「馬絹」の神社名に惹かれたのである。神社に近づくにつれ三々五々集まってくる参詣者の姿に、寒風の中、胸に温かいものが広がった。

《馬絹神社拝殿》

馬絹神社入口から拝殿広場までの参道に参詣者の長蛇の列ができていた。一列に２～５人、参道の階段は30数段、途中に５～６列並べる踊り場が３ケ所あり、拝殿前から参道の入口まで200数十名が粛々と新年を待つ。0時を過ぎ新年を迎えると参詣者は一段々々と緩慢に階段を上がる。連れ添う人同士の小声の会話が聞こえるものの実に整然、粛々と参拝の順番を待つ善男善女。私の後に続々と参詣者が並び、振り返ると神社入口まで列なっている。拝殿前で、善き新年を祈り参拝を終えた参詣者は、神社が用意した甘酒の持て成しを受け、寒さで冷え切った身体の五臓六腑に沁みわたり帰途に就く参詣者の身も心も温めた。

《御神木・千年の松》

昨年9月半ば、まだ猛暑和らがぬ午後、馬絹神社の来歴の取材に訪れるにあたり私は、かねて抱く二つの疑問を解決したいと思った。一つは、馬絹神社がかつて女体権現社とも女体神社とも称したこと。もう一つは、現在の「馬絹」名の由来が那辺にあるのか？

拝殿の右に、「御神木千年の松」として松の木の一部分と、加工した板（厚さ一寸×高さ六尺）が祀られていた。その説明文には、「昭和16年まで参道入口に茂っていたが戦争で切り取られたこと」又「その松には古代、源頼朝が馬の袖絹を打ち掛けたとの伝説があり、それに因み“馬絹”の名が生まれた」云々とあった。たまたま社務所から現れた方に「松の木は戦災で焼かれ切り倒されたのですか？」と尋ねると、「枯れたのです」との答え。「私は子供だったが、子供六、七人が手を繋いで幹の周りを計った程の大木だった」と往時を懐かしむように話してくれたのは社務所の管理人・石渡利長さん。

例大祭の前日10月14日に再び馬絹神社を訪ねた。参道の両脇は、露店の組み立ての真っ最中。階段を上がる。拝殿前の広場には神輿が設えられ、翌日の準備は万端。神輿は現代の名工・中台祐信作、龍と十二支の精妙な彫刻が素晴らしい。社務所で奉賛会会長・田邉英夫さんに、馬絹神社がかつて女体神社と称していたことについて尋ねると、「御祭神が伊邪那美命で、女性ですから」とのこと。田邉会長は続けて「女体神社から神明神社に改称したのは明治43年。近隣の八幡神社、三島神社、熊野神社、白山神社の４社を合祀した時。そして昭和54年に神楽殿また昭和62年10月に神殿を新築、参道の階段を整備し再建した際に馬絹神社に改称されました」と語る。「馬絹」を神社名としたのは、「頼朝公ゆかりの伝説に因む地名から」との由。会長から翌15日の例大祭に10地区11神酒所を巡る神輿の宮出し・宮入りの時間を伺って神社を後にした。

翌日例大祭の朝9時の宮出しから神輿の供をして歩いた。神輿を担ぐのは約50名。神輿の周りには「馬絹」等の様々な印しの半纏着用の約300名が供に進む。担ぎ手の交代要員だ。前日、田邊会長は「重量のある神輿を一日かけて地区内を回るので交代要員が必要。青年会60名では要員不足なので、神奈川県内のほか近県、遠くは岩手や秋田県から交流会の方々が神輿を担ぎにきてくれる」と話していた。

《幼稚園児は神輿に歓声》

神酒所で、「オイサ！オイサッ！」と掛け声とともに担ぎ手が神輿をもむのを見ていると、「初めてですか？」と馬絹の印半纏着用の藤本明さんに声をかけられ、「神社に行って氏神様に参拝し祈願するのが本来だが、様々な事情から出掛けられない人々がいる。そういう方々のため、氏神御神体が輿に乗り移って神社から出張して地区内を巡る、その時の乗り物が神輿なんですね」と説明していただいた。そう言われてみて、高齢で足元が覚束ない方が門の前に立ち、笑顔で神輿を迎え、見送っている姿を思い返した。又、ある神酒所では、高齢の方が家族に車椅子を押してもらって家の中から現れ、神輿の前で家族と一緒に笑顔でカメラに収まっているのを見たりした。

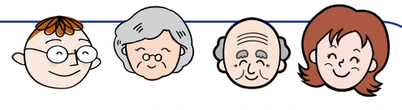
《「よこた」に集中》

泉福寺の神酒所では、社会科の校外授業か、100名程の小学生が神輿見学のため整然と待機していた。泉福寺は住職をはじめ寺をあげて神輿の担ぎ手を労って懇切に応接。泉福寺と馬絹神社との関わりは深く、同寺に代々伝わる古文書には、『元禄十丁巳年十二月武蔵国橘郡稲毛領馬絹検地水張除地』の部に『女体権現社地五反弐畝歩』と記されており、「その記述により馬絹神社の創建時期が江戸時代元禄年間以前とされています」と田邉会長が前日話されていた。

午前中は、矢中、矢尻、三ツ又広場、寺台、平台と神酒所を巡り、六か所目の小台公園で昼の休憩にはいる。小台公園では、保育士に引率された200数十名の幼稚園児が神輿を迎え、担ぎ手による神輿の「せりもち」に大歓声を挙げ、「よこた」には真剣な眼差しで見守る。こうして神輿に関する文化が幼い子供に伝えられていくのだろう。

午後6時頃、神輿が宮入りする頃に馬絹神社を訪ねた。参道の両脇は隙間なく露店が建ち並び、親子連れなどで賑わう。神楽殿では「浦安の舞」や太鼓演奏が奉納。午後6時半頃、拝殿前の広場に神輿が宮入り、広場を埋める人々が大歓声で迎える。一際激しく担ぎ手が「せりもち」を繰り返したあと、「よこた」に移り、それから再び「せりもち」が一頻りあり宮入りが完了。拝殿前に鎮座した神輿は大役を果たし燦然と輝いていた。（坪井喬記）

会員募集　いっしょに夢づくり



宮前区には、名所遺跡・文化財・郷土芸能・地域産業など、地域の資源が豊富にあります。宮前区観光協会は、地域における観光事業の振興を図り、郷土・文化の発展に向けて事業展開することにより、地域の皆様が誇りと愛着を持てる、活力あふれる宮前区を創造していきたいと考えております。

宮前区観光協会にご賛同いただき、ご入会いただける方は、下記事務局までご連絡願います。

会費（年額）は個人会員１口　1,000円
団体会員１口　5,000円
法人会員１口　10,000円

なお、会員様におかれましては、宮前区内特約店（８店）にてお買い物の際は、各種サービスを受けることができます。

申し込み先：宮前区役所地域振興課
電話044（856）3135　FAX 044（856）3119

あの人この人

いらっしゃいませ！
創業者の心　今も秘めて４０数年　これからも
有馬療養温泉旅館　代表取締役　安岡重高さん

《玄関の前に立つ安岡重高さん》

『由緒ある療養温泉旅館』

1965年7月27日、有馬の地はまだ上水道が整備されておらず創業者の安岡孝氏が水を得るため井戸を掘り水が湧きそれが後の泉源となる。古くは世の人びとを様々な病から救ったと伝わる『有馬西明寺の霊泉』、『誠の泉』として古文書に記載されている。影向寺の末寺とされる有馬西明寺が現在の中原区小杉御殿町に移るまでこの場所は有馬西明寺の境内でした。旅館の脇には史蹟、霊泉の効能を知り、当時の厚生大臣『園田直』氏が命名し、皇后陛下に献上された事を記念した『霊光泉』の石碑、八幡宮も祀られその歴史の重さを感じる。1966年、孝氏は有馬療養温泉を設立し、自宅の温泉風呂の無料開放を始めた。その事が新聞で報道され連日多くの人びとが温泉を楽しみに訪れた。重高さんは、「その人の数には驚いた。入りきれなくて待っている人もいた。自分たちが入る事も出来ない程だった。それが毎日だからね」と、やさしさに溢れた笑顔で語った。

《いらっしゃいませ！3代目一剛さんと、ハイ！パチリ》

1968年療養温泉施設として登録し『ここは病気に苦しむ人たちに与えられた場所』と信念を元に営業を始めた。

町並み、交通機関など取り巻く環境が変化してきた現代、湯治・温泉療養・観光の拠点として多くの人びとに愛されている。機械技術者の重高さんは29歳で家業を継いだ。「旅館周辺は見渡す限りが田んぼ、畑で人家など見当たらない」と懐かしそうに当時の様子を語った。『書物よりも物事は実践』と、お考えの姿は行動力の力強さが伝わってきた。川崎市内唯一の『シルバースター認可の宿』に登録。休館日を利用して「敬老の日無料招待」を30数年間続けている。老人ホーム理事、旅館組合など実に17団体の要職に就いて県、地域で日々ご活躍をなされている。

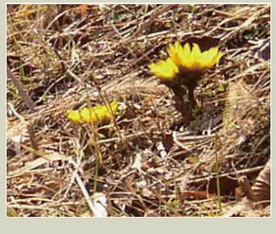
《八幡宮敷地に建つ『霊光泉』の記念石碑》

「趣味は釣りですか」と尋ねると、「旅館のお客様に『江戸前の味』を味わっていただきたくて東京湾に漁に出る。だから趣味と言うより漁だな」と、お客様の喜ぶ姿に心打たれる思いを感じるとも語った。同席いただいた3代目一剛さんは、歴史に興味がありその深さに驚かされた。お父様の思いを尋ねると『幼少の記憶は温泉の管理をしている姿を思い出す。効率的な温泉の管理方法を作り上げた』、『人任せでなく、自分でやること』、『人と人との関わり』などを話された。その姿は心から尊敬、感謝している様子を私は感じた。

「父にはいつまでも元気でいてもらい、ただ座っているだけでよい。たくさんの教えられた事を心に刻み温泉を守る」と力強い言葉があった。取材中、宿泊者のお客様、日帰り入浴の常連さんなどが来られて館内は混み始めてきた。いつの間にか日も暮れて、外は冷たい風が吹いていたが取材を終えて素晴らしいご家族の姿を拝見させていただき心が温まる思いを胸に家路に向かった。（青柳和美記）

有馬療養温泉旅館ＨＰはhttp://www.arimaonsen.jpをご覧下さい。

春の花紀行　早春のおとずれ幸せを招く花、福寿草



幸せと長寿を祝う花として古くから縁起の良い花とされてきました。
花言葉もめでたく『幸せを招く』花が咲いたら幸せもやってくるかも知れませんね。（渡辺寛美記）

宮前区 観光協会特約店

- 中国料理　嗜唯呶　（シード）
- 宮前平源泉　湯けむりの庄
- 駿河屋製菓
- チーズ＆プリン工房
- 高橋工務店
- DANDELION
- 森永宮前ミルクセンター蔵敷販売所
- 竹水園
- タウンニュース社